

平成 26 年度第 7 回生駒市介護保険運営協議会
議事録

開催日時	平成 26 年 10 月 31 日（金） 午後 2 時 00 分～午後 3 時 35 分
開催場所	コミュニティセンター 4 階 402・403 会議室
出席者 （委員）	澤井委員、高取委員、萩原委員、井上委員、中庄谷委員、日野委員 永田委員、林委員、小坂委員、藤尾委員、櫻井委員、小川委員、村上委員
欠席者	辻村委員
事務局	福祉部長 坂本、高齢福祉課課長 安達、高齢福祉課課長補佐 堤 高齢福祉課係長 谷、高齢福祉課 水澤、介護保険課課長 奥田 介護保険課課長補佐 島岡、介護保険課課長補佐 田中、介護保険課係長 吉田 介護保険課 殿水、介護保険課係長 原木、介護保険課 齋藤
案件	<ul style="list-style-type: none"> （1）会議の公開・非公開について （2）予防部会からの報告について （3）高齢者保健福祉計画・第 6 期生駒市介護保険事業計画の素案 （総論）について （4）高齢者保健福祉計画・第 6 期生駒市介護保険事業計画の素案 （各論）について （5）市民福祉委員会テーマ別調査報告書（地域包括ケアシステム）について （6）その他
資料	<p>平成 26 年度 第 7 回生駒市介護保険運営協議会 会議次第</p> <p>（資料 1）高齢者保健福祉計画・第 6 期生駒市介護保険事業計画（素案）</p> <p>（資料 2）市民福祉委員会テーマ別調査報告書</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事務局	開会 会議は生駒市介護保険条例により会長にお願いすることになっていきますので、澤井会長よろしくお願ひします。
澤井会長	案件（１）会議の公開・非公開について事務局より説明願ひます。
事務局	案件（１）会議の公開・非公開について
澤井会長	案件（２）予防部会からの報告について説明願ひます。
事務局	案件（２）予防部会からの報告について説明。
澤井会長	案件（３）高齢者保健福祉計画・第６期生駒市介護保険事業計画の素案（総論）について説明願ひます。
事務局	高齢者保健福祉計画・第６期生駒市介護保険事業計画の素案（総論）について説明
澤井会長	総論についてご報告いただきましたが、まだ素案の段階ですので変更は可能です。ご意見をいただきたいと思ひます。 私の方から２つありますが、一つは１３ページのグラフの下に表があつて、認定率がありますね。生駒市の認定率は平成１８年１７．１パーセント、つまり６５歳以上人口の中で介護保険の認定を受けた方の割合が１７．１パーセントということです。その後、１５パーセント台まで下がつて１５．６パーセントです。全国の認定率は、ちよつと下がつた時もありますが、上がつてきて、２５年で１７．６パーセント。２パーセントの差がある。どうもこの傾向は固定しそうな感じですが、これをどのように評価されますか。
事務局	１８年から１９年に向けて、国にも市も下がつているわけですが、これは要介護認定の判定の制度が一部、国の方で修正されたということがあつて、その関係で制度改正による認定者が少し減るといふ構造がありました。その後、また自然増に連動して、その基準で、微細な基準の変更等は、認定期間の延長ということはありませんでしたが、基本的には人口増に比例して、増加の一途をたどつていふということです。

	<p>会長の方でご指摘のある平成 25 年でみても、2 パーセント程度、生駒市の方が低いですよ。この部分については、基本的な構造としては、このページの前の方にもありましたように、前期高齢者、これの人数が今のところ、後期高齢者 75 歳以上よりも多くありますので、その方は基本的に、まだ認定を受けられる方が非常に少ないということで、全国的にはやはり高齢化が進んでおり、75 歳以上の方が割合多くなっているという市町村が多くあります。その関係で、まだ今のところ、後期高齢者が少ないため、認定発生率が少ないということです。その認定の発生率は、23 ページを見ていただくと、下の段に前期後期高齢者の要介護認定率ということで書いていますように、後期高齢者の方の認定率は 30 数パーセントという非常に高い率。感覚的にも 75 歳以上になられると、やはり心身の状態が低下して、感覚的にも、皆さん、ご存じのように弱っておられますよねということで認定者が増えてしまう。それに対して 65 歳から 75 歳未満ということは、その下の方の前期高齢者の認定率、これは 4 パーセント、3 パーセントということで桁が一桁違うと。このような影響で、生駒市の場合は前期高齢者がまだ比較的多いため、全国平均には届いていませんが、今後、2025 年に向けて後期高齢者が前期高齢者を平成 32 年程度には上回るようになっていきますので、急激に増える見込みで、あまり安心できない。そういう部分もあって、できるだけ介護予防で認定の方にできるだけいっていただかないように強力に進めていきたいと考えています。</p>
澤井会長	<p>基本的には人口構造の若さが反映されているということですかね。全国的な高齢化のスピードとずれがあるということでしょうね。僕はやっぱり予防施策と想像したらいいのではないかと思います。効果はだんだん出てくる。</p> <p>もう一つ、アンケート調査をされていますね。14 ページから 21 ページまでですが、ご説明いただきましたが、アンケート調査をまとめるとどういうポイントがありますか。特色やニーズの構造など。つまり、施策をどこに絞って議論するかということだと思います。アンケート調査からニーズを出して、どこにしぼったらアンケート調査に出ているような住民の意向、市民の意向に対応できるか。そういう点では施策の絞り方に関係しますが。</p>
事務局	<p>アンケート調査結果の一部だけを抜粋しているので、ここだけですべて網羅できないとは思いますが、一つは認知症の問題がアンケート調査の中で、かなり住民の関心度が高いかなというところが出てきています。認知症の早期発見、対応の仕組みづくりというところでは、約半数近い方がそれに力を入れて欲しいという意見がありましたので、当然、それは政策の中で取り組んでいきたいということで、計画にも盛り込んでいます。あと、地域活動にも関心はあるけれども、なかなかその機会がないというアンケートの調査結果もありましたので、これから互助の仕組みや</p>

<p>澤井会長</p>	<p>自助の仕組みをつくっていくという辺りでは、知識としてというか、感覚的にはそういうふうな関心が高い人が多いというところは、これから仕掛けや仕組みをつくっていくうえでは、かなり心強い結果が出たかと思っています。</p> <p>後は、認知症の部分も6段階で調査結果をした21ページに結果がありますが、元気な方でも何らかの認知症状を有している人というのが、この2,500人、3,000人の調査結果から出てきていますので、やはり認定は受けていない方たちの中にも認知症を隠れて持っておられる方がいるという一定の数字が今回の調査結果の中であつたかと思えます。</p> <p>あとは介護予防の関係で、骨関節疾患のところのニーズが高いということで、それも6期計画に盛り込ませていただいたのと、あとは在宅生活の継続のために必要なサービスというところでは、やはり外出支援や緊急時の通報システム、現在もやっていますが、そういう安心を確保するものとか、生活支援サービスのニーズが高かったということもありますので、その辺りの高齢者の安全の確保や地域の支援体制の整備というところを計画の中に盛り込ませていただいたような状況です。</p> <p>少し理解がはっきりしたかと思えます。その他ございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>せっかくですので手を挙げます。30ページの施策の体系、基本的方針6介護サービスの基盤整備と質的向上で思うことですが、もうすでに行政の方は把握しておられると思いますが、ケアマネジャーさんについて、ケアマネジャーさんの資質にすぐばらつきがあるように思います。ケアマネをしていただいた方の話を聞くと資質にばらつきがあつて、ケアマネさんの管理監督はどこでされているのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ケアマネジャーの資質管理というところでは、地域包括支援センターの中に包括的、継続的ケアマネジメントという業務があつて、その中でケアマネジャーの後方支援を図るということで、一つは支援困難ケースの対応など、例えば、ケアマネジャーの資質の差異があつた場合は、そこをフォローするというシステム、あとは生駒市には居宅介護支援事業者協会という協会があるので、そちらで一定の介護保険の新しい情報提供や事例検討会、事例検討会に関しては、地域包括支援センターの方でも圏域ごとに数年前からやっていますので、そういったことで教育といいますか、指導といいますか、そんな形の体制は生駒では取っています。</p>
<p>委員</p>	<p>ああ、そうですか。ただ、ケアプランを作成されるケアマネジャーのケアプランによって介護保険費用、介護サービスの質を大きく左右する立場におられるのはケアマネジャーさんではないかなと思っていますので、介護に対するあらゆる面の知</p>

	<p>識、認識など広く吸収されてよりよい介護ができますように、介護者の不十分な介護にならないように、今後ともお願いしたいと思います。それから、ケアプラン作成の際に、要介護の認定度によって、介護保険の適用金額の限度が決まっていますね。それを使って、要介護者は介護プランを作成していただいていると思いますが、本人および家族が、これでいいわと言うにもかかわらず、あなたは認定度がこうだから、これだけ介護保険を使えるから、もっと使いなさいよという推奨の形を取られるケアマネジャーさんも今までかなりいらっしゃったということを聞いていますし、実際、自分も経験していますので、そういうことが介護保険の給付費にすごく大きな影響をきたしているのではないかと考えていますので、その辺もきちんとした、どういう言葉を使えばいいのか分かりませんが、検閲といったらちょっと厳しいですが、その辺もきちんとやっていただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。必要以上のケアプランを作成しないようにという、その辺もぜひよろしく願いいたします。以上です。</p>
澤井会長	<p>その他にございますか。あれば、またあとで出していただくことにして、各論の方にまいりましょうか。</p>
事務局	<p>(4) 高齢者保健福祉計画・第6期生駒市介護保険事業計画の素案(各論)について</p>
澤井会長	<p>それでは一括してご意見、ご質問がありましたらお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。ございませんか。会議が終わってから個別にいただいても結構です。</p> <p>僕の方から一つだけ。高齢者福祉計画にも関わっていると思いますが、生きがいづくりや社会参加について書かれていますが、全体に見て、学校の位置付けみたいなものは分かりませんか。地域というのは、学校中心のところがありますね。だから、校区だと思うのですが、学校の役割。福祉教育とか。子どもたちに認知症の知識を持ってもらうとか、そういうような形で、学校が福祉に携わっていくようなことは議論されていませんか。</p>
事務局	<p>具体的にこうだという議論は、正直やっていません。ただ、出前講座ということで、色々な学校に行ったり、学校だけではなく、自治会といったところに福祉関係の出前講座はやっていますが、残念ながら、当課が直接行って、そういった出前講座をしたという実績はありません。去年からしかできていませんが、去年、今年の2年間ではやっていません。</p>
委員	<p>学校単位では、学校は学校なりにこういう会議を持たれて、今年は食育でいこうとか、福祉のことを勉強しようとかいうそれはそれなりのことをやっておられて、</p>

	<p>ひだまりという精神作業所の方からいつもお手紙をいただくのですが、そちらでは、作業所というのは、わりと精神病になった人たちが集まるサロンのようなところがあるのですが、なかなか閉鎖されていて、大人の人たちはわりと出入りしますが、子どもが出入りすることがわりとなかったところが、この前、子どもたちが訪問して、交流をしたというチラシがはいっていました。ああ、いいことしているなと。昨日送られてきたのを見て、つくづく思ったところです。先生からのご提案のように、学校は学校サイドで、こういうことに頑張っていかなければならないという取り組みをされているというのがありがたいなというところです。逆に、そういう情報をいただきながら、またこの行政との兼ね合いも深めていけたらというところです。</p>
澤井会長	<p>学校ではやっているけれども、それがこちらからは見えない。</p>
委員	<p>それがわりとつながっていなかったり、情報も来ないので、そういうところが弱いかなど。やっぱり縦割りなので、学校は学校で食育をがんばっていますと言われるのですが、健康課は健康課でも食育を頑張っていると。高齢者は高齢者でも食育をしていますとなると、縦割りで、一緒にしようかという体制づくりがなかなか。その間に挟まっている私たちボランティアがつなぎをしていけたらなというところで、ますますボランティアさんなり、自治会の人たちがこうやで、ああやで、とつなげていく役目かなとは思っているところです。</p>
委員	<p>地域ぐるみ推進委員会というのがあります。中学校区で地域ぐるみということで、学校関係、民生・児童委員、青少年指導委員、自治会、PTA関係など、すべてそういう方が集まって地域ぐるみ推進委員会を行っています。ついこの間もあったのですが、その時に子どものことも含め、地域全体で高齢者も含め、地域ぐるみで何か助け合っていけばいいのではないかという話がちょっと出ました。学校関係ということで、今それをお話ししました。</p>
澤井会長	<p>地域ぐるみ推進委員会というのは、中学校区ごとにあるのですか。</p>
委員	<p>そうです。そこにも色々な人が集まってこういう会議をもっています。</p>
委員	<p>そこに要するに、今言ったような団体が全部で30人、40人集まって、一応学校区ですので、幼稚園から保育園から、中学の校長先生関係全部集まって、そういう取り組みを行っています。</p>

澤井会長	面白い取り組みですね。
委員	歴史は深いんですよ。なかなか深いんですが、それはそれのかたまりで固まってしまっているんです。
事務局	<p>行政側の組織が縦割りなので、情報がうまく連携していないということでご指摘をいただいています。私どもも実はその辺の連携が再三計画の中でも、地域包括ケアということで、5分野の部分について、福祉部局だけでは十分それは対応できないということですので、10月の初めに横断的な、その辺の情報の共有とそれから推進を図るために庁内組織として、地域包括ケア推進会議という庁内会議をつくりました。その中で副市長をトップにして、今日出席しています坂本部長が副会長ということで、強力に地域包括ケアを進めていくのに庁内連携を取って推進するという形にしています。ところが、その中で個別的に、今、教育委員会の部局まで、今、入っていただく状況にはなっていませんでしたが、今のようなご指摘の部分も今後必要だろうということで、教育委員会部局の方、学校教育中心にした形で、そこでそのメンバーに今後入っていただくことによって、その辺、庁内としても情報をお互いに共有して、向こうの施策に反映したり、こちらでまた何かやれたりということを図っていったらということ、ちょっと今、そのご指摘を受けて思いましたので、そういう庁内組織で何らかの対応をしていったらということの一つの提案とさせていただきます。</p>
委員	<p>老人クラブですが、生駒市の老人クラブは、子どもたちとの交流を毎年しているんです。それは次世代交流とあって、ある程度の費用は行政からいただいています。それが、それも年々減らされていって、交流ができなくなってきている状態で、これはちょっとよくないと。やっぱり老人クラブと小学生の交流、学校へ行って昔遊びを教えてあげたり、昔の話をしてあげたりということをしているのが、だんだんできなくなってきたのが現状です。これをなんとかもうちょっとやってほしいなと希望していますが、なかなかこれが。</p>
澤井会長	<p>多世代交流という、要するに、高齢者が子どもたちを支援する役割を持たないと駄目だと思います。高齢者はお世話されるばかりではなく、高齢者が主人公になって地域の世話をします。それが一番子どもにとってもいいと思います。そういう意味でちゃんと位置付けた方がいいと思います。高齢者福祉部局の中でもいいと思うし、教育委員会の方もそういう位置付けで、学校教育の中に福祉教育をどう位置付けていくかということ、きちんとしていただきたいと思います。学校、子どもたちというのはすごい資源ですからね。そう思うのですが。</p>

委員	<p>やっぱり元気がもらえるんですね、子どもと接すると。だから、これは大切なことだなと思っているのですが、補助が毎年減らされていくと。何とかならないかというところですよ。</p>
澤井会長	<p>この会議を契機に変わっていくのではないですか。</p>
委員	<p>今、中学生は就業体験をしています。うちにも2つの中学校から今月来ています。ちょっとした体験をすると。私はこれは教育委員会か言われたのか、福祉サイドから言われたのか、流れがちょっと分かりませんが、私は非常にいいことだと思っています。その理由は、大分前からこの会議でも何回も言っていますが、次世代の労働者、介護関係、福祉関係の労働者を確保していこうとした時に、10年後の労働者は、今、中学生なんですね。その方たちをターゲットという表現はまずいですが、育成していこうとした時に、今の段階では、じいちゃんばあちゃん、祖父母と同居している家族は非常に少ないと思います。核家族の進展と、独居高齢者、老夫婦世帯が増えてきているわけですから、そこの交流が必要であると。今、何とかしようというのが交流の話。10年後どうしようかというのは、今のその方たちをどうしようか。こういう話を両方絡めた話でいくのが私はいいかかなと思っています。</p>
澤井会長	<p>高齢者をお世話したらこんな感じだったよというのが分かります、また違いますから。昨日、実は、こちらの市の市民参画委員会で議論が出ていましたが、徘徊高齢者を助けるのが中学生だったりするんです。中学生は結構、昼間うろうろしていますから、そういう子たちが役に立つと。その子たちがもしも認知症の知識を持っていれば結構な制度になりますし、何かのきっかけがあれば、ケア労働者になってくれると思います。要するに、高齢者と中学生の垣根を低くすることも必要ではないかと思っています。</p>
委員	<p>それをやられていることは私も知っていますが、出前講座でも学校から職場へ出てくるというのも、本当にその学校が希望しなければ来ません。だからそれを強制的にすることはできなくても、学校のトップの方がそれをしようと決められたところは来ますが、出前講座を見ていても片寄りがあるように見えます。所望する学校にしか行きませんから、生駒全域が平均的になっているとはいえないと思います。だからそれをどのように浸透させていくかということが課題になっているのではないかと思います。来る子どもも本当に一握りの子しか来ませんから、受け入れも大変ですけど、一握りの子が来て、それで終わってしまう。一応、やっていますよというような形のケースがあるのではないかという感じを受けます。</p>

澤井会長	<p>この議論は、今回は反映できにくいとは思いますが、どうでしょうか。そういう意見があったということをどこかに反映できますでしょうか。今の段階では無理でしょうか。</p>
事務局	<p>非常に貴重なご意見ですので、鋭意努力をさせていただいて、次回の計画の方に、一部でもご満足いただけるかどうか分かりませんが、ちょっと努力をしてみたいと考えています。</p>
澤井会長	<p>前文か総論辺りにでもちょっと入れるとかいうことはできるかもしれませんねん。</p>
委員	<p>市民自治協議会、生駒市内で小学校区ごとに設立していくという話を聞いたことがあります。この本の中にも2回ほど文言が出てきていますが、今現在、生駒市で市民自治協議会の設立できているところがあるのでしょうか。教えていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>確定しているのは一つだけあります。</p>
委員	<p>それは動いているのですか。</p>
事務局	<p>まだこれから動き出すということを聞いています。あと2つ、それに向けて、今準備をしているということは聞いています。</p>
委員	<p>ありがとうございます。今、色々な学校の教育の問題とか色々なことが出てきましたが、それぞれのグループ、団体は一生懸命やっておられますが、その枠の外の人は一切、そういう活動があるということも知らないんですね。それは行政の縦割り行政でも一緒だと思います。市民自治協議会というのは、本当に小学校区で一つにまとめて色々な方面の団体が一つになって、活動していくというものと理解しているのですが、こういうことができると、やっぱりもっと小学校の高学年になれば地域の高齢者施設、例えば、老人ホームなどの見学に行くことによって、歳を取っていったらこうなると。今は核家族が多いので、歳を取ったらこうなんだということを知ってもらおうというのも、人間形成にもすごく役立つことかなと思いますので、ぜひ横のつながりで活動できるように、行政も努力していただけたらと思います。市民もそれなりに頑張っていますが、みんなそれぞれ単発的な動きをやっているようにしか見えませんので、</p>

	<p>よろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
<p>澤井会長</p>	<p>それでは（５）市民福祉委員会テーマ別調査報告書（地域包括ケアシステム）について説明願ひます。</p>
<p>事務局</p>	<p>（５）市民福祉委員会テーマ別調査報告書（地域包括ケアシステム）について</p>
<p>澤井会長</p>	<p>先進地は、富士宮市が総合相談窓口ということで、地域包括支援センターを独特のやり方でしています。柏市は在宅医療推進の取組。尾道は地域包括ケアの発祥の地です。市の医師会を中心にした病院です。読ませていただきたいと思ひます。どうもありがとうございます。そのほか、ございますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>案件（６）その他について説明。</p>
<p>澤井会長</p>	<p>次回は11月19日、市役所で行います。どうもありがとうございました。 (終了)</p>